庚申年冨士山参詣群集之圖

一鵬齋芳藤画

冨士山畧記

抑當御山ハ三國第一
万國無雙の奇山にて
諸神出世の仙元境なり
故に冨士仙元大神と称じ
祭る所三座中にて中央ハ
天照太神の神孫地神第三代
瓊瓊杵尊と申奉る
當て大神の神勅を
奉じて高天ヶ原より豊
芦原中國日本國と久かに
天降り天ヶ下と知ろし
召

大山祇
命の女木花
開耶姫命と娶りて
同四代彦火々出見尊を生しめ
給ふ故に大山祇木花開耶姫の二神
左右として以上三柱の神を合せ崇て仙元
大神と祭る是　本朝守護の霊神にして
安産で子を又ハ登蚕繭の道を護るの御神
なれバ別して婦人ハ尊信致し奉るべき
也叔又此御山往昔天地開闢の時自然
涌出の奇峯たりとも　人皇五代
孝照天皇の御宇迄ハ雲霧繁く未だ天地の
氣滞清からざる故に世人拜する緒を得ざるに
同六代孝安天皇九十二年庚申の英衛霽
霧始て晴万國の貴賤ともに

奉拜をと云或ハ同七代
孝霊天皇五年近江
國に忽地一夜に湖水涌
出し同日に駿河國に冨士山
出現せしとも亦ハ麓にある八海ハ則
御山涌出の跡なる共云り夫より同十二代

七面山

大山祇
命の女木花
開耶姫命を娶りて
同四代彦火々出見尊を生しめ
玉ふ故に大山祇木花開耶姫の二神
左右として以上三柱の神を合せ崇て仙元
大神と祭る是 本朝守護の霊神にして
安産を守る又ハ蠶繭の道を護るの御神
家に別して婦人ハ尊信仕し奉るべき
也扨又此御山往昔天地開闢の時自然
涌出の奥峯なれとも 人皇五代
孝照天皇の御宇迄ハ雲霧盤く未だ天地の
氣滞清からざる故に世人拝する絆を得ざるに
同六代孝安天皇九十二年庚申の夏漸雲
霧始て晴万國の貴賤ともに
奉拝をと云或ハ同七代
孝霊天皇五年近江
國に忽地一夜に湖水涌
出し同日に駿河國に富士山
出現せしとも亦ハ麓にある八海ハ則
御山涌出の跡なる共云り夫より同十二代
景行天皇五十二年日本武尊
東夷御征伐の御時則三神岳
跡の御山なるべしとて是を勧請ある
ける此御山ハ南景に出現
たまふ北方子の方より詣人
拝仰走しと假に華表を
御建立ありて茲に始て神威を
示し三國第一山の額を掛られ
是や蓬莱の仙境にして塵外の
霊場祈るに利益潔然として神徳
耿々たれバ誰かこの御神を信ぜ
ざらんや仰ざらんや

應需 藤村秀賀謹誌

一鵬斎芳藤画

横山町三丁目 辻岡屋